

私は本を読むのが苦手でした。小さな頃、親から読書をすすめてくれていたがずっと逃げていました。なぜか本に集中できません。しかし、大人になってようやく理由がわかりました。斜視で読んでいる行を見失うのです。特に縦書きの本は何度も何度も同じ行を読んではしまうので苦手でした。横書きは読むことが出来るのですが、小学生の時に出会った本はほとんどが縦書きだったので苦手意識がありました。しかし、「本を読まない」こと

④9 読書が苦手な訳



斜視の困難 上回った星新一

を家や学校で注意され続けてきたので、「本が読めない」という本当の理由に私自身も気づかず、「自分は本に集中できない性格なんだ」と思い込んでいました。同様に双眼鏡や双眼実態顕微鏡もうまく見えていませんでしたが、斜視であるからという理由に気づいたのは大人になってからでした。このように本に限らず、子どもの「集中力がない」「できない」などには、大人が思ってもみない子ども側からの理由がある可能性

もありません。だからこそ、育児や教育の場ではしっかり留意する必要があります。そんな本嫌いの私でしたが、小学校4年生の時にすてきな本に出会いました。星新一さんの「未来いそっぷ」という本です。10ページ程度でテンポよく書かれた文庫本サイズの短編集です。「面白くない!」「ずっと読んでいたい」と

いう味わったことのない感覚になりました。今までならば同じ行を読んで、集中力を奪われ、挫折してしまいましたが、今回は違います。面白さがネガティブ要因の全てを上回り、「何が何でも読みたい」という気持ちになり1日で読み終わりました。

読み終わった後もワクワクは止まりません。未来いそっぷの巻末にあった他の作品の広告を見て、「星新一の全ての作品を読みたい」とうずうずします。次の日、近所の本屋にあった星新一の本は全て購入しました。それが読み終わると自転車で行き、自転車で自転車で隣町に行き、自転車でいける範囲の全ての本屋を回りまわりました。最終的には親にお願いし、梅田にある大きな本屋に行き、星新一の全ての作品を購入し、読破しました。

子どもたちは、本以外にも夢中になるようなすてきな人やものに出会えば人生が変わります。夢中になるものに出会うにはたくさん挑戦が必要です。教育や育児では、その機会をたくさん与えることが大切です。

